

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
交通史		交通体系の形成と歴史的発展	大野 絢也	2年次前期	2
科目区分	専門	キーワード	鉄道、自動車、船舶、航空機、物流		
ディプロマポリシーとの対応		2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける			
事前に受講するとよい科目		「交通概論」「交通英語入門」「鉄道基礎」「鉄道工学」「鉄道数学」			
講義の目的	交通体系の整備が近代社会の形成にどのような影響を与えたのかについて、交通機関や輸送手段毎に紹介する。そして、交通体系の歴史的系譜を学習することによって、現代社会の成り立ちについても深く理解できるようになることを目的とする。				
到達目標	交通体系の歴史を理解することによって、現代の交通に関するさまざまな問題に対して関心を持ち、自分の意見を持つことができる。				
講義内容	交通体系の整備は、旅客や貨物をより高速に、より遠方に輸送することを可能とした。それは地域や国といった枠組みをこえて、国際関係にも大きな影響を与えてきた。現代の交通問題に直結する内容を扱うため、対象時期は近現代(19～20世紀)が中心となるが、必要に応じて古代・中世・近世の交通体系も扱う。対象地域は日本を中心としつつ、海外の事例もとりあげる。特別な予備知識は必要としない。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	導入	資料配布や講義の説明		
	第2講	道路と交通	陸上交通の起源と役割		
	第3講	水運と交通	水上交通の起源と役割		
	第4講	航空機と交通	航空機開発と技術の発展		
	第5講	都市化と交通	市電・路線バス・地下鉄・インターアーバンの形成史		
	第6講	自動車産業と交通	自動車の技術開発と普及		
	第7講	航空産業と交通	国産航空機の開発と課題		
	第8講	物流革命と交通	交通機関の連携と効率化		
	第9講	公共事業と交通	高速道路・新幹線・空港・運河港湾		
	第10講	地域社会と交通	求められた長大橋・トンネル・バイパス建設		
	第11講	交通の民営化	模索される地域交通網の維持形態		
	第12講	交通政策の歪み	交通事業の延期や中止の背景		
	第13講	車社会と過疎化の展開	地域社会に必要な交通とは何か？		
	第14講	交通とグローバル化	交通網の発展にともなう世界の一体化		
第15講	まとめ	総括			
指導方法	講義はレジュメと映像資料を主に用い、交通と社会の関係性について紹介する。毎回、レジュメや映像資料を踏まえたリアクションペーパー記入などの課題を課す予定である。				
事前学習	シラバスを参考に、各回の内容について書籍やウェブサイトなどで概要を調べておくことを推奨する。そのほか、新聞やニュースを見る習慣をつくり、交通に関連する報道を自らのノートにまとめ、興味関心をひろげると良い。1時間程度の学習時間が目安である。				
事後学習	講義内で紹介した書籍や配布資料を見直すことや、自ら関連のある映像資料を探して視聴すること。1時間程度の学習時間が目安である。また、機会があれば紹介した交通機関をさらに知るため、実際に利用してみることをすすめる。				
成績評価方法	平常点(授業内課題)：50%、本試験(筆記試験)：50%として、総合的に評価する。				
テキスト	特に1冊を指定する事はしない。必要な資料については、各回で随時配布する。				
参考書籍	国際交通安全学会編『「交通」が結ぶ文明と文化：歴史に学び、未来を語る』技報堂出版、2006年。その他、講義内で適宜提示する。				
特記事項	特になし。				